泊船集

上

泊船集 叙

黄門宮家にんてゝ乃日訓詁と申称に利
口なるまゝのもあさもよろしるんちゝ亀しん
なきものよんをつゝものいをぬものもい
まを利口一毎るまゝ亀ゝ訓詁
とゝよ字まゝろを清稽ものしして註し
於ゝるものゝ一て今の正風称をゝて
なるを借稽八陰伊楚をよゆいて楚人を

誓願の如来本願も一体和尚乃人
々をすくはるゝきゝひとりんの一
元八人々おのゝ芥雜の方上よりあの
ゝ乃たいいすゝしいたゆる利口なる思
ま世々たいいと書らいるものハ思慮
一ま乃上よりあゝてかゝるをたいらい乃
こゝろハまゝハ乃道ゝ乃わさを
このゝゝて有ぬ為一つゝゆゝ乃たいらい

歌と歌乃字ゝゝ陽て書ゝもこゝ乃有ける
へしたいらい乃ゝ凡つゝ人ゝまゝゝ為
まゝて道ゝ鄙ゝる人もまゝゝ乃遠く
ハ頼朝卿後頼家ゝ世ゝ乃ゝ時まゝ世ゝ乃ゝ
既阿一近くハ宗雅ゝ言旨ゝ乃吟ハ
書ゝ家ゝ為ゝ人ゝ乃一れるまゝし其吟
跡ハ一端ゝ為ゝ陽て深く感情を神
吟まゝゝ為ゝ自ゝ為ゝ癒ゝ

いつまで西行宗祇のあとをつぐべ
人も聞さらんと宗鑑貞徳よりして
きわめて世人は世人の
あらぬ事をきゝ
宗因もし古風くつき因の風流世より
きて世世遠ざかりて時
移りて支師芭蕉高もて爾来乃至
宗祇乃器量ありしきに

終りて八紘の数無き及び連歌八代の日々
の文影化世々ひくなひさしさるこの
いてきて彩彩風流を発
西風乃陽々せる白よる果不易
のきゝ一時流行の乃高格あきらかや
其いろ〳〳のきゝ
活あまた〳〳八其〳〳猿さる葉見
なり邪叶乃乃きゝ止代なりとつゝ

やうやく宗鏡貞恒ことりてあるひと
先師を待ちそしめて正風ぬぎ入さん
とてもりおのつからそなたに任せ今あと
人磨毎人毎生てきいらいよあそし
毎年ともに必堂を撫してよと祈さん
まことをいらいの毎日一日きるの命
世よ有りそん一うるそ先師の流筆
遺稿編纂の事きまし陳くしよ

きるかうまと今一枚吸とも書くは後を
只集よ如武ハ人の耳よ乃ことをるほ
自を殺ひきゆくハ影方をわるさを同
士乃あよかくをる遺言一行もも絶す
細をよ乃そりるハうを仮集て須船堂
乃遺稿乃乃ことりて也僕つきなき
毎つくれ仕れを兼恵乃るハうる人
校正一毎まく其時建弘乃遺稿文章

[illegible]紀若年今[illegible]ぬ宮[illegible]
[illegible]
[illegible]

元禄拾一寅年　初秋　風國誌識

泊船集巻之一

芭蕉翁道乃記

千里の旅を思て路頭を作る
三更月下無人の境に何入とらの書
[illegible]

享甲子秋八月江戸深川芭蕉庵
いつる程風の音
むさしなる
野さらす風の音
秋十年
関越る日も百姓
霧ふり富士ぬるるあるまき

何某千里
乃ゐなかなる
ゐなかなる
乃文盲の
野人

千里

深川芭蕉庵富士
影
富士川乃
この

注あの野川乃早瀬よかりし
深草乃野を志ぐれに出て
嘉つるの乃令まつ乃と松を
ちよ小萩うまるとの秋の風
ひやちるしんあすやちるまん
と待つるの喰あなげしるよ
猿つるしんすこ子よ
あのかぶいて

いるやゆちれるまれ
ある の毋子ら まし ある の
又ハやん ちを 要る子 あ で
毋子 ゆ ら ある あし
唯是 天 ゆ の 性乃
つ ある ゆ 家

大井川 ゆ 日 孫日 雨降
秋乃日乃雨降よ ちる
指ん大井川

眼前

[illegible]

二十日餘り[illegible]月うきうきて[illegible]

山乃根ぎしにいとくるしき[illegible]

[illegible]里ふきて

雞鳴[illegible]す杜牧の早[illegible]

[illegible]小[illegible]乃中山[illegible]

[illegible]

馬耳寂て[illegible]月

[illegible]

松尾や風瀑の伊勢に有る

を[illegible]て十日[illegible]

[illegible]

鳥井[illegible]陽[illegible]

[illegible]止[illegible]

嵐は松風身にしみまさりぬる
娘のくさんとを契りして
みうゝ月なし
みちせし杉とを
抱あし
腰間に寸鐵を不帯襟に
一嚢を急こしまに十八の
珠を推集ふ僧に卿し
塵あり俗に似て姓名

乗僧にあらさしとほ
頭嚢なまきりの八浮屠なん
属にまさく遍て神あま
入とゆるさきて
西にし谷の姫のとこ深あめさん
なまもの草あしふひと子中
いもあしふ女西行
なふしくのこのやまん

其日乃うさあり菓子平らに
見るに平てうしるしるおんあ
あこの花は豊旬せよと云て寄物語
も書付ける
蘭乃香や蝶乃翅よ
閑人乃茅舎哉
蔦植て竹四五本乃あるなる

長月中旬故つて海りて北堂
乃芝草も中れ林果て弟子の花
まさに年なる何年もむるるる
てさらかるるる鬢白く眉皺
中るる共命に者るるるる云
言禁ハ力なる年と乃の乃
守り代るるは乃るるて毋乃白髪
おのるるる浦乃蔦乃子ゑ乃茅

なんとたの眉てんやさきもり
ト士つ〳〵ゆきもし
ものとゝ〳〵清ん
なるゝてあつま
秋乃霜

大和國てし乃郡乃内とゝ〳〵ゆきて
はるゝハまい乃ちりの雨星ゆきし

日はゝ〳〵ゆきて見くを休す
叢くさの花〳〵家内
ゆゝ時雨を財乃
二上山當麻寺詣て石上乃松
天竺牛をこのくさともいふ
この事非情といへども仏縁ゆゑ
の花〳〵咲竹生ゆ霜ともまぬ

れたるぞ幸にしてたつとし

僧朝顔幾死かへる法の松

獨よし野ゝおくにたどりけるに
まことに山深く白雲峯に重り
烟雨谷を埋んで
山賤の家處々にちいさく西に
木を伐音東にひゞき院々の
鐘の聲は心の底にこたふ
むかしより此山に入て世を忘れ
たる人のおほくは詩にのがれ
哥にかくるいでや唐土の
廬山といはむもまたむべなら
ずや

ある坊に一夜をかりて

碪打て我にきかせよや坊が妻

西上人の草の庵のあとは
奥の院より右の方二町ばかりわけ入

[illegible]

露

[illegible]

[illegible]

山を登りて故郷に秋乃日既に
斜なる野辺に谷あるゆふくれ
清て生る情[illegible]陵
有り

御廟を過て きのふ
大和ゝの山城を経て近江路に
入て[illegible]
を過て いまを山中
へ常盤乃塚あり

伊勢乃国武ゐ[illegible]
[illegible]年似[illegible]
乃[illegible]

義朝乃[illegible]
あ[illegible]

石破

秋[illegible]や[illegible]も留も

不破の関

大堤に沿り[illegible]
[illegible]武蔵野も時
野[illegible]
[illegible]

死なもせぬ[illegible]の果よ
あ[illegible]

葉[illegible]本[illegible]

冬牡丹[illegible]

茅生原にて夜あかしまぎ
れぬるころ中に濱乃ゝもとに
あけ方の月のやゝ白き事一すじ

熱田にて

社頭大イニ破れ築地ハ荒れ
ゝ茅村にのこるかしこさ
縄をはりて小社ゝ移るを
見て其
神と名乃るゝあなゝのふん
乃まゝに生るゝるゝなるゝゝ月
の度ゝもゝんゝ乃りゝる
志乃婦さゝ枯ゝ餅の屋ゝ乃ゝ
茶護ゝ屋ゝ入ゝ道乃程諷
狂句風ゝ身ハ朱ゝ実ゝ似る
茅ゝゝ大ゝもゝゝ乃ゝ

遊まんよありきて
市へこの笠うり　吉の筆
旅人ふるんる
馬ふさくなこの子なる　雪乃道
海道ては雪て
海れて晴のちほの
うふ白し
雪みてうちちとなかいこま枝
ふさてて旅寝なるよ年世雪れた

年くれぬ雪きて
ちちきれて
といひくもも山家よりも袖て
誰か墨てて歯屋よ餅おか
大念良よもる乃年乃年
真ちなまや屋もちの山乃
二月雪て筆乃餅家
水取りや氷乃僧の番世雪

京に登りて三井秋風の鳴滝
乃山家をとゝよ

梅林

梅白し[illegible]ぬまよりの
樫乃木乃花乃のゝよつぬ[illegible]
伏見西山乃住に上人あるて

我乃乃ぬゝ乃桃の雪ゝよ

大津乃もる乃山路乃
やまゝ乃まゝてゝ乃ゝ
湖水乃朧乃
峠乃雲ハ
畫乃休ゝて
腰乃
つゝいけて其陰乃千鶏
吟し
草乃留乃

[illegible]年を経て
故人今年あり
今二月中旬
伊豆の国蛭の小嶋の柴間に
もさく年の秋さくらの花
我身をまさしく乃枝乃間に
ひとりと尾張の国まで踏
しあひ来あわらまた

いさらあり穂麦
此得てはよ先て曰周そんする大
顛和尚と
むの月のはあ近花
さくあまりまさしく枝のの
せさて年世んのよりの其角ぐら
へ申ほのさ
樹こさく卯の花垣
なるれ

照杜子

白々とよりぐ蝶は

こゝあり桐葉子このうりとて宥て

今やあづまてくんくるは

牡丹苗蜂の〳〵ゐる

蜂乃名残

甲斐乃山影てあちよりて

ゆく駒乃麦よ踏すやられ

卯月の末いほりて

つのまきたて

なつ乃ふすま風のらる

佐しくて

後へよ変〳〵削和乃句

素堂乃跋あり今

器うく

泊船集巻之二

芭蕉翁句拾遺稿

維陽　風國撰次

[illegible]部

元日田ゝ[illegible]

誰[illegible]の[illegible]

元日ハ[illegible]

[illegible]

二日[illegible]

三日[illegible]閑て題正月

四日

大津繪[illegible]

京ちゝ[illegible]

こゝ[illegible]

年こえや新玉の春立ぬ
人しれぬ恋や鏡の乃梅
年こえや猿ぬすびとを追乃猿
蓬莱にかやいせの初便

菜葉

菖蒲よりハ黄乃若葉哉

風麦高

高きもてまぐ九月の野山哉

梅

纲代民部殿ゟ見舞ありて

梅乃末ゟ猶乃ちとの梅乃哉

山里ハ万葉おそ梅乃哉

子良館乃後ニ梅あり
[illegible]
内子良子乃一すと所梅乃花
うんもやゝ乃ちもさゝ梅乃花
真もやゝ今ゝと乃ふ月と梅
旅の〳〵ち市乃葉ハ梅ゝなわなわ
かゝへ来ぬ屋敷〳〵の梅柳
梅の香ニ乃つとは乃もる山路な

色ゝ
そ乃女亭
暖 篠乃巣ものゆ北乃梅
いの乃坪下ニうゝ
ゆあわるくさな香し
香ニおほへうるほる巫乃梅乃花
何某彰八月まのわるる年
一周忌ニ父梅九りとくゆ
[illegible]

一茅舎少乃ふるさとおもし
宿借るあるじさびぬ鶯乃
程おもしやるせなし

梅　この辺乃むかし一字
あるじ形也

餞し別　東武行

梅若塚まちこ乃宿乃さと

門人何のしるしぞくまもなく
馬乃ちふさをしたまひし

立ちよるまゝよ風乃音ちる梅の花

梅柳　さ枝し茅屋の女うし
天初乃比乃哀ちり

鶯

うぐひすや餅ふ茅屋乃梅の上

鶯や柳乃うしろ乃藪乃奥

[illegible]

[illegible]

橋

[illegible]

柳

[illegible]

傘ゟ柳分見る柳の元

八九百年ゟ兩岸の柳ゟ

雲雀

雲雀なく中ゝ物ゝや雛ゝ影

彩よ見ゝ隣りゝ

栖去ゝ雛ゝ

累ゝ

小文庫ゝ

この雲雀ゝ上ゝ体ゝ峠ゝ

雛ゝ

高野ゝ

父母ゝ雛ゝ

蛇ゝ

つゝゝ

さゝつゝ

陽炎

うけらのや 深川乃糸北薄
枯せるやきとうけらの一二寸

伊賀新大佛之記 今暴ス

文二年 陽炎高 百万遍

真面

不性さやかな数さ川 真の面
真面乃まちよかた雪下うな
真面や 蠟乃巣たちよ
乃ねのりる
紙きぬ乃ゆるもくん面乃も

竜

さゝなの都 浄瑠璃小歌

憂てハ方ハ知酒乃憂ゝ
負メハ覚ニル銭ノ神一ツ

竜ゝ浮世我酒白く食黒
右三句ハ延宝乃まゝ乃詩

大和乃七草尾村ゝし
竜乃隠語ゝ似寄ねこの
ものゝ汁もなまゝ物ゝ
如何ゝ二の仏首ひさごとゝ
いゝ乃竜ゝ乃庭ハ八重梅ゝ料一年
附ゝれ乃ゝとゝ伝ゝ
一里ハゝゝ竜ゝ守乃ゝ孫ゝ

やまとの国を行脚して葛
城山乃ふもとをすくるによもの
花ハさかりにて峯〳〵ハ
かすみわたる明ぼの乃けしき
いとゝ艶なるに彼乃神
乃みかたちあしゝと人乃口さ
かなく世にいひつたへ侍れハ

猶見たし花に明ゆく神乃顔

最中乃桃乃中よりはつさくら
いつ迄乃信楽乃咲こしましとある

よし野
花さかり山ハ日比乃朝ぼらけ

杜納
しゝやまし浮世乃花乃山桜

景清も花見乃座にハ七兵衛

西行像讃

[illegible]八[illegible]と乃
おもへ[illegible]

雪乃晴るはハ

さ[illegible]こ[illegible]あれ[illegible]乃晴る

白ハ[illegible]れこ[illegible]
[illegible]れ

花乃雲ゑ鐘ハ上野乃淺草ゑ

二月十七日神路山を出るとて

西行乃なるこ[illegible]

僧賀乃信[illegible]

裸ふハまぐ二月ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつ乃枝ハ橋に映し仕かなり

驍羽

此ころ推古よ世に五器一具

種せうや世乃さかゑを嘉めりし

花を吸蚊なくしてひとり なきえん

ちる花やるもおと消く琴乃塵

此乃句 琴ト太鼓ト笙ト かまし

繪乃賛し

觀音乃いらかみやりつ花乃雲

其角か曰、此句ハ上野か淺草と

いひし翁乃年乃末遊

病起乃眺望觀ゑし

一聯二句乃格し 何を呼て句とは

かふらん 七重七堂伽藍八重さくら

宗世亭

ゆきを宿ふやしめ後りや廿日程

明日八橋乃あたりや谷乃者
まれにくるるあり きのふ
物ゝと見てあきハいまゝ
生前一樽乃あるハ一ゝ郎
あるハ
酔ゝ賢者乃世言をうらぬ
さゝ〳〵さやてむ乃あるゝ
あるもなるゝ

酒落堂乃記畧

四方乃山乃雪乃入て湖乃波
芳野山乃桜乃ゝ伊賀
乃むらの花ゝ
別乃杜ゝ
とりて橋乃
芳野ゝて橋乃人を牡し橋乃

酒乃と月乃絵

月乃もとにて酒飲獨乃

三歌仙乃圖

月乃もとやまと武さし

山時乃

山時乃き也字治乃焼炉乃時

ほろ〳〵と山時乃ちるの雖乃者

涅槃

ねはん繪や鍋と合る珠數
乃ゑな

いせ[illegible]て

神ゐや おもゝと掛て涅槃像

当別

鮒乃ゆ[illegible]魚這る別れ

蛙

古池や蛙飛込水乃音

二月 吉日 [illegible] 是橋の

剃髪 入醫門 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]さつきの藤ほり

大和の師匠のもとへ

[illegible]

日の長くうるはしき長屋

宗[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]清水

陳解[illegible]

[illegible]

[illegible]

青柳の[illegible]

[illegible]

[illegible]

其角宗雪あり

[illegible]

深川一乃草蔵

[illegible]

[illegible]

悔只九

[illegible]

[illegible]

猫乃こゝろ

猫乃こゝ体そな間乃朧月

麦飯乃やりそこゝ猫のつま

蝶

蝶乃飛こゝの野中ハ影

[illegible]

蟬の乃賛

白魚や黒き目を明く法の網

大示良し故人を別る

二俣を別れ行く鹿の角

二見乃圖を見る侍りし

うきかりの乃瀬乃音も浦ぬ春

也神社樂

何乃木の花くも志ぐれ

ほひろ

題しらず

末當乃情雪や生ぬ春雪

おとろひや歯にくひあてし海苔の砂

雀子と声なきかはす鼠乃巣

大比枝やしを引きてし一

このもとこ

此句ハ翁乃作なるよし　ある人に

きこぬ実否ハさしおきしめ

尾細しお撲に里芋の葉の露

和撲ふり草ハ芭蕉翁乃

るへしと集に入ぬ秋乃句なるや

行春を近江の人とおしみける

行春や鳥啼魚乃目ハ泪

此句乃詞書　細道にあり

對梅宇文
荻原乙彦
蔵于俳書
二酉精舎